原作　松居松翁

三勇士名譽肉彈

脚色　食滿南北
作曲　鶴澤友次郎
舞臺裝置　松田種次

志士は溝壑にあるを忘れず勇士は其元を喪ふを忘れずとかや、時しも昭和七の年、月は如月下二日、御國に忠を筑紫路のほまれも高き三勇士、語り傳ふる敷島の大和の國の櫻花、幾千代かけてにほふらん、こゝは所も上海に近き村落麥家宅、霜さへ氷る曉に間近く敵を冲の石、かはく間もなき汗や血に、まみれてつくす工兵の其塹壕に前進の命を松下中隊長折しもあれや舊曆の十七日の月さえてあやしの人のうごめく影、誰か〳〵ハイ私は廟行鎭鐵條網ある咄し澤山〳〵する事有り、中隊長殿怪しい奴をとらへました、ムよし連れて來い、ハイ、オイ、言ふ事が有るならそこで言へ、それ廟行鎭中々堅い、機關銃澤山ある日本兵少ない中々落ちる事ないナ、外へ廻るヨロシイナ、だまれ貴さまは誰に賴まれてそんな馬鹿な宣傳をしに廻りよるか、怪しい奴だ、馬田軍曹繩れ、ハ、ア中隊長殿危ない事でしたナ、あぶない事だつたオイ、馬田軍曹そやつ何か持つてゐないか身体檢査をして見よ、ハア中隊長殿軍隊手帳がありました、ムそうか、第十九路軍の正規兵です、ム、扨はそうかと顏見合せ、油斷ならじと囁やく折しも軍用電話、けたゝましく内田伍長は取り上げてハ、ハ、ハ、松下中隊で有ります、旅團命令で有りますか、ハ、ハ、、、、復哨、本隊は其主力を持つて二十二日午前五時三十分を期し廟行鎭の總攻擊を開始す、松下中隊は其正面の鐵條網をばくはし、五個所に歩兵突擊路を開くべし、終り、ハ、ハ、ハ、分りました、中隊隊長殿命令が參りました、ム、中隊長殿電話に出て下さい、よし、ハ、松下大尉であります、ハハ分りました、本中隊は直ちに決死隊を募り確かに其時間までに敵の鐵條網を破壞し完全にとつげき路を開きます、終り、と答ふる聲も覺悟の一諾、馬田軍曹進み寄り、中隊長殿旅團の御命令でもあの敵

の鐵條網は實に構築堅固で我爆擊機が日夜必死の奮闘もまだ何等の効果も無く、尋常一様の手段では迚も駄目だと思ひます、とつぶさに語る敵情に、松下大尉につこと笑ひ、其出來ない事を仕遂るが日本軍人のほこりである、日本軍人の上には常に天佑有つて守らるゝ、是れ日の本の常ぞかし、小隊長集れ、只今の旅團の命令に依つて當中隊は決死隊をつのる、大島小隊長は三名宛二組の先發班、後續班の決死隊を選拔せよ、東島小隊長は豫備班として三名の決死隊を選拔せよ、終り、復哨、大島小隊は三名宛、二組の先發班後續班の決死隊を選拔仕ます終り、復哨東島小隊長は三名の豫備班を選拔します、終り、よし、小隊長は選拔兵を集めてくれ、ハイ第一小隊島田一等兵古川一等兵高野一等兵、黑澤一等兵村田一等兵村上一等兵集れ、第二小隊北川一等兵、江下一等兵作江一等兵集れ、聲に應じてばら〳〵と居並ぶ諸士の勇しや、氣を付け、番號、一、二、三、四、五、六、七、八、九、集合終りました、よし扨て、九名の者に中隊長は一言す、只今旅團命令が降つた、本中隊は正面の鐵條網を破壞し五條の突擊路を開くべき重大なる任務を受けた、是本中隊の無上の光榮である、しかし此作業は、尤も困難である、されば今日迄多くの兵士は倒れ、様ざまの犧牲を拂つたが中々堅固の要害である、本隊はちかつて此の名譽ある任務を全うし、目的を成就しなければならない、そこでこゝに決死隊を募る、依て此決死隊に選拔せられたお前達は一命を賭して此任務を全ふしてくれい、ハイ、我々は決死の覺悟をもちまして、事に當ります、ヲ、よく言つてくれた、嬉しいぞッ、諸君が國家の爲に盡さんとする赤誠の精神に對し、松下大尉愈々感激にたへない畏れ多いことではあるが　大元帥陛下に置かせられては此の忠誠を聞こし召さば嘸や至情の發露ぞと御嘉納あらせらるゝ事であらふ、皆わかつたか、ハイ、わかりましたと意氣沖天の勇士の言葉、ヲ、勇ましい天晴れだ、口には言へど心には御國の爲とは言ひながらあたら勇士を戰場の土と化するか、哀れやと怯む心を取直し、氣を付け、只今より、擧手の禮を以つて袂別にかへる、敬禮、互に擧手の一禮はこれぞ此世の名殘りぞと別れてこそは進み行く。

時の至るを三人が月の光りをあびながら、語るも淸き、戰友の胸の內こそゆゝしけれ、作江伊之助こなたを見やり、ア、月はます〳〵冴えてゐるナア、オイ北川なにをぼんやり考へてゐるのだ、何か國の事でも思ひ出したのか、ナニそうじやないよ、おれはひそかに謀事をめぐらしてゐる、とでもいふのかな、兎に角考へてゐるんだな、ナニ謀事ハ、、、、考へもくそもあるものか、此場合手段はたつた一つしかないのだ、貴樣の手段てのは大低見當がついてるよ、負けずきらいの貴樣の事だから、鐵條網へ喰ひつかふとでも言ふんぢやろ、狼じやなか、よせやい、アハ、、互ひに通ずる心と心、オイ江下ゐるかと言ひつゝ來る內田伍長、ハッ江下居ります、お前國から、郵便が來てゐるぞ、お前ばかりうまくしてゐるナア、貴樣も昨日來てたじやないか、そふだつたナア、併しお前達選拔にあつてよかつたな、中隊長殿

の御訓示もあつたが皆しつかりやつてくれよ、中隊長殿の處へもふ一度來るだらう、其時又逢はふ、待つてゐるぞ、と言捨てこそ急ぎ行く。江下手紙取り上ぐれば、オイ江下どこから來たんだお父さんからか、イヤ家からじやないよ、何處かの子供からだ、では慰問の手紙か、ア、コレハ此の間日本を立つ時久留米の停車場で逢つた少年からの手紙だ、フム、ではお前に天子樣の爲に働いて下さいといふ、激勵の言葉を與へてくれたと言つて、スツカリ昂奮して居たアノ小學生からの手紙なのか、おれはアノ少年の一言の爲にいつでも死ぬる氣になつて、愉快に日本を出て來る事が出來たんだ、モウすぐ死るかもわからないが、こふして呑氣にしてゐられるのは、矢張りアノ少年の力なんだ、マア見てくれよ、こんな事が書いてあるよ、私の大事な兵隊さん、あなたは立派な手柄をして、久留米へ歸つて來る日を私は毎日指を折つてまつて居りますよ、あなたの凱旋の時には家中お父さんもお母さんも兄さんも妹もみんなで迎へに行きます、私の大事な〳〵兵隊さん、本當に天子樣の爲めに働いて死ないで歸つて來て下さい、ア、可愛い事をかくもんだナア、他人でさへこんなだもの、北川、江下にもらい泣きはいゝが、江下が死んだらお前も死ぬか、江下が死なくつたつて、どふせ死ぬんじなやいか、ウム、そふだ、アノ鐵條網と來たら今まで誰も手がつけられなかつたんだからな、一寸でも傍へよればソクボウ砲や迫擊砲であびせかけられるんだから、どふせのがれつこはないんだ、そふだ、破壞筒をかつぎ込んだところで、口火をつける前にみんなやられて仕廻んだからな、今度こそは此我々の最後の働きが日本軍隊の運命に關するんだから、しつかりやらなくつちやいけんぞッ、ムゝさつきお前が言つた謀事といつたのは其手段を考へてゐたのか、おれも先刻から決心してゐるんだ、決心ならおれだつてしてゐるんだ、それなら三人とも同じ事を考へてゐるんだな、そふだ、じや破壞筒を自分の體へくゝりつけて體と一緒に爆發させる考へなんだナ、ウム此方法が一番上策なんだからナ、上策の下策のといつてコレが日本軍隊に取つてたつた一つの名策なんだ、自分自身が爆烈彈と一緒に敵の鐵條網へ飛び込まふといふんだ、是れ程慥な爆發の方法はないからナ、やろか、やろふ、しつかりやらふぜ、日本帝國の爲だ、作江、江下、北川、サコレデお互ひの一生の別れだ、水盃といふ處だがどうせ火に燒かれて死ぬ體だ、一つ煙草の呑廻しといふのはどふだらうナ、成程、こいつは面白いデハ作江、お前から呑み初めろよ、じやおれから呑むとしよふよし來た、煙りはうすき紫の其のあかうばふ譽れの火、互ひに目と目心と心、併しこうして死を決して見ると存外氣が樂になるもんだナア、おれア是から芝居でも見に行く樣なほがらかな氣がしてゐるんだよ、おれだつてそふだこうなると何だか呑氣になれたよ、併しうまく鐵條網に近付ければいゝがそこが天佑だ、此三人の意氣で彼奴等をめくらにして見せらアオイソーラ見ろ、雲が出て來たぜ、月が隱れてくれりやいゝがナア、フムアノ雲の具合じや、大丈夫だ、ハ、ア、いゝ月だナア、十七日の月だ、アレを見るひと思出さずにや

ゐられねェナ、國のお母さんに別れた晩の事か、作江アノ晩の貴様の話しを聞いた時、おれはもらひ泣きをしたよ、お前のお父さんは日露戰爭のとき輜重輸卒だつたので、勳章一つ貰はずに歸つて來たといつてお母さんは一緒になつて口惜しがつてゐたそうだな、今度こそは此事を聞いたら、お前のお母さんも泣いて嬉しがるだらう、ム、子供の時から始終言はれてゐたんだ、立派な軍人になつて國家の爲に働いてくれつて、其時が今恰度やつて來たんだ、おれはそれを思ふと北川、江下、俺も嬉しいよ、しつかりしろよサモウ時間が迫つて來たから、そろ〳〵仕度をしなければなるまい、フム中隊長殿に此計畫を報告して行かなければいけないだらふ、サアアノ人情深い中隊殿の事だから、いくら決死隊とは言へ、始めから死でかゝる樣な無茶な事は許さないかも知れないぞ、それもそうだ、謀事は密なるを何とか言ふ事があるだらふ、仲間にも默つて別れた方が一層サバ〳〵してよかばい、成程それもそふだナ、男らしくて、其方がいゝや、サア是れでこの世に思ひ殘す事はない、ではボツ〳〵出掛けよふぜ、折しもきこゆる機關銃、三士は耳を傾けて、ヲ、先發班が出發したぞ、爆發せんじやないか、不發らしいぞ、オウ後續班も出發したぞ、やられたらしいな、フム味方は慥かに仕損じたぞ、あきれてしばし言葉なし馬田軍曹かけ來り、オイ殘念だ、先發班後續班も全滅したぞ、殘るはお前達ばかりだ右翼は危機に瀕してゐる、大日本帝國の爲だ賴むぞ〳〵〳〵言捨てゝこそ急ぎ行く、サ愈々やるのだ、見ろ月が隱れたぞ、天祐だゞたぞ有難い〳〵〳〵三人目と目を見合はせて、心の覺悟御國の爲、身は肉彈の三勇士、流石は櫻大和の誇り其花またぬ勇士と勇士、互ひに抱き月影も雲にかくれて打ち出す砲彈の響き轟きて、廟行鎭の要害は蜘蛛手と張りし鐵條網、近づく事もならの葉の此の手もかの手もつき果てゝ、策をほどこすすべもなし、折しも忍ぶ三人の影、破壞筒をひんだかへ、亂射亂擊ものかはと、探照燈の光りをさけ、鐵條網にせまり行く、天祐だぞ、オイ、點火だ〳〵よし來た　天皇陛下萬歲大日本帝國萬歲〳〵の聲もろとも、天地もゆるがす大爆音、さしもほこりし堅壘も破れて爰に突擊路、夜は明けはなれ東天に輝き昇る日の御旗、下元少將しづ〳〵と隊伍とゝのへ立出る、氣を付けつ、松下大尉の報告を委しく聞いて旅團長あまたゝび打ちうなづき扨は北川江下作江の三勇士の爲に堅固の鐵條網も破壞され突擊路は開かれ容易に我軍の勝利になつたるも、皆これ三勇士の賜物じや、爰に下元旅團長以下戰友一同謹んで三士の英靈に氣を付け捧げ銃、（これより軍歌合唱）肉彈ここに奏功の譽れを世々に傳ふらん。

須磨の櫻

須磨寺櫻。此華江南所無也。

一枝於折盜之輩者。

任天永紅葉之例。代一枝者可剪一指

壽永三年二月　日